

会報
令和5年
4月号
(毎月10日発行)
No. 498



垂水区老人クラブ連合会

発行人 松木伸年 〒655-8570 神戸市垂水区日向1-5-1 垂水区役所まちづくり課内 TEL078-708-5151(内線312)

3月度理事会報告

3月14日(火)13時30分から、区役所303会議室において、3月度理事会が開催された。

1. 事前案件

- ① まちづくり課音瀬課長から、2月3日(金)垂水区内で交通死亡事故発生の報告があった。バス降車直後に道路横断中、事故に遭って亡くなられたとのこと。道路を横断する場合は、横断歩道を利用しようと呼び掛けられた。同様の趣旨を記載しているつつじが丘シニアクラブ会報「つながる」も配布された。
- ② W T S社から3月10日に実施された福祉研修旅行の参加者：14クラブ38名との報告があった。
- ③ まちづくり課橋本係長から「令和5年度老人クラブ補助金の概要について」と「老人クラブ補助金関係書類の提出について」の説明があった。例年との変更点は、各単位クラブに補助金が振り込まれた後、各クラブから市老連・区老連に分担金を振込むことになったこと。金額は後日、まちづくり課から伝達される。

2. 会長挨拶

今月で令和4年度も終わり、来月から5年度に入ります。1年間のお礼申し上げます。来年度も引き続きよろしくお祈いします。垂水警察署長も、垂水区長も交代されるとのことです。クラブの会長が交代されるクラブは、来月の理事会までに連絡をお願いします。5月23日(火)区老連定時総会は昨年と同様、会長と他1名の参加で行いたいのです。よろしくお祈いします。

3. 協議・報告事項

- ① 市老連調査事項：男女会員数調査用紙に記入し4月7日(金)の理事会で提出する
- ② 5月27日(土)に開催される「たるみっ子まつり」に区老連も出展するので、バザーに提供する「こどもさんが喜ぶ品物」の供出を決めた。品物は5月23日の定時総会の折に、各クラブ2品目を目途にご提供ください。(小林)

当面の行事予定

4月					
4	火	区	総合部会	区役所 301 会議室	13:30
7	金	区	理事会	区役所 302 会議室	13:30
20	木	市	春季ゲートボール大会	しあわせの村	9:00
5月					
10	水	区	総合部会	区役所 301 会議室	13:30
11	木	区	理事会	区役所 301 会議室	13:30
18	木	市	グラウンドゴルフ大会	しあわせの村	9:30
23	火	区	区老連定時大会	区役所大会議室	13:30
25	木	区	グラウンドゴルフ大会	スポーツガーデン	9:30
26	金	市	市老連社員総会	婦人会館	
27	土		たるみっ子まつり	舞子公園	10:00

市老連 福祉研修会

福祉部会 部会長 新谷 寛子

2月22日(水) 神戸文化ホールで KOBEシニアクラブ 福祉研修会がありました。大辻理事長の開会あいさつに続いて、神戸市福祉局竹野係長による「認知症神戸モデル」の講演。市独自の認知症診断助成制度のお話があり、神戸モデルの概要など少し難しい内容でした。



認知症の方への対応の心得「3つの『ない』」は、①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけない」だそうです。私どもの地域でも高齢化が進んでいるので、この3つの「ない」を常に意識しなければと思いました。

休憩が10分あり、その次は落語家 桂あやめさんの「笑いでコミュニケーション」の講演がありました。笑いは人の気であり人のパワーである。

1対1での対話であれ、そこに笑いがあれば、それはイヤなものをお腹から出して元気なものが入ってくる、パワーを生んでくれるというお話に感動しました。流ちょうな語り口での講演も、



出ばやしの後の高座での落語も、機知に富み、会場中が明るい笑い声であふれました。

有意義な福祉研修会でした。

5月号会報当番

- ☆当番クラブ (2クラブで半数交替、同一人物で円滑引継)
- ※**桃山台クラブ** (※責任クラブ)、**つつじが丘シニアクラブ** (次回) ※つつじが丘シニアクラブ、矢元台むつみ会
- ☆配布日 **5月11日(木) 10時～11時30分**
(次回) 6月8日(木) 10時～11時30分
- ☆作業手順
 1. 準備 当番クラブは9時30分～10時にミーティングコーナーにて区老連会報と市老連広報紙の同一クラブのものを2段重ねにし、クラブ番号順に長机上に並べる
 2. 配布・受領他 各クラブは10時～11時30分に受領・押印する。この間、当番クラブは**区老連会報**を所定の封筒に封入糊付け(計13通)、宛名ラベルを貼りそれらをレターボックス(会計)の引出しに入れる
 3. 後作業 11時30分に配布を締切、未引取会報をクラブ毎に専用袋に入れクラブ名札を付け、受取記録表・残存会報等と共に、印刷コーナーのレターボックス上コンテナボックスに収納する
(市・区会報を各々10部所定位置へ保存)

区老連 交通安全推進委員会

旭が丘悠悠クラブ 小林 孝

2月14日(火)13時から区役所大会議室において、2年ぶりに交通安全推進委員会が開催された。

先ず松下交通安全推進委員長から挨拶があり、次に垂水警察署交通課の塚本警部補が、昨年の垂水区内の交通事故の状況が報告され、昨年は死亡事故がゼロであったが、今年になって2月3日に死亡事故が発生したと、それは駐車場から出た車と歩行者の接触事故であった。スピードがさほど出なくても大きな事故になった。細心の注意が大事だと述べられた。更に横断歩道が近くに無く、道路横断する場合、特にバス停で降車して反対側に行く時、車両の前後を渡ることは道路交通法で禁止されていることを紹介。次にケンちゃん人形の登場、軽妙な腹話術で交通安全の心得を語った。

この後、兵庫県警察本部交通企画課安全教育係の谷口警部補、近藤巡查長の担当で「危険予測シミュレータ」を使って、いろんな状況を想定した訓練を行った。装置は、正面とその両サイドにある画面に種々の自動車が、走行している様子が映し出され、そこを、歩行者が如何に安全に横断または通行出来るかを試みるもので、4人の方がそれぞれ違うパターンに臨まれたが悉くアウト。装置に慣れてないことが影響したと思うが、私たち高齢者への警鐘と捉えていきたい。



☆☆ 春を探しに ☆☆

道親会 副会長 三谷 勝廣

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、お正月・春の七草・成人の日・立春と進み、修二会(お水取り)も始まり早くも3月に。新型コロナは収束の兆しも見えず、且つ1月には10年振りの



積雪に見舞われ交通マヒも起こり、春は何時来るのか?かと思つた日も。童謡の歌詞ではないですが「春よ来い、早く来い」って思いで近所を散歩がてら、春を探しに行つて来ました。家の前の雑木林や舞子墓園、近所の雑木林を慣れた足取りで散歩しましたが、季節は確実に春に向かっていました。舞子墓園の湿地では土筆(つくし)が頭を出し、雑木林では紅梅、白梅の花が開き、寒椿が梅の間から鮮やかな色で咲き誇り、自宅の植木鉢にもプリムラが花を咲かせ、チューリップが勢い良く春に向かって芽を延ばしています。梅の木の間をチョコチョコと飛び回っているメジロを見つけた時は本当に春の息吹を感じました。

クラブ便り 4年が過ぎた我がクラブ

狩口シニア倶楽部 副会長 庄司 庸男

令和元年4月に発会式を行ってから4年が経過しま

した。区老連におわびをしたいのですが、当初登録したクラブ名が狩口シニア倶楽部で申し込んでいたこと



新年会

が今になって判明しました。いつの間にか全ての書類でヤをアに変えて作成していたのが、今回正式に「狩口シニア倶楽部」と変更いたします。

「仲間作り」と「フレイル防止」を目的とし近辺住民に伝えたとこ、会員数は現在87名となり、15の部が誕生しました。

15の部名と所属人数は以下の通りです。旅行11名、生け花14名、民踊20名、手芸



輪投げ大会

20名、麻雀16名、カラオケ10名、俳句会10名、書道教室13名、笑いヨガ10名、詩吟会2名、みんなで歌おう会26名、グラウンド・ゴルフ19名、輪投げ部21名、リズム体操21名、お助け隊18名です。

舞子ビラでの楽しいつどいには「みんなで歌おう会」「民踊」「笑いヨガ」の部が参加し好評で300人余りの観客から拍手をいただきました。

また、つい最近、全国からの俳句公募で我が倶楽部会長の服部康子さんが見事大賞を受賞しました。

応募句は、

鱧恐竜淡路の島を揺さぶりぬ

です。鱧はハモと読み淡路島の特産です。

我が倶楽部には80歳以上の会員が30名以上おられますが、コロナ感染には十分な配慮をしながら日々楽しんでおります。



日の入りも段々と遅くなり、夕陽も輝きを増してきました。3月には卒業式や卒園式があり子供達が巣立って行く一



方、4月には入社式や入学式・入園式と新たな希望に向かって歩み始める時でもあります。

「春よ来い♪早く来い♪」楽しんでみな春です。

俳句

(狩口シニア倶楽部)

梅林の香り高きは花の寺
瀬戸内の海苔船うかぶ夕日影
和菓子屋や一足先の春きたり
流水のひしめき合いて朝明け

長瀬 冴子
服部 豊康
佐伯サトミ
富澤トモ子

春寒のしゅんしゅんと沸つ厨かな
若布刈り返す波間にカマ入れる
風光る天までとどけブランコの子
ただひとつ日だまりに咲く残雪梅

山 一力
佐藤 浩恵
山田佐和子
吉俣 正光

千木聳え神の寄り憑く建國祭
(多聞台ときわ会文芸部)

橋田 草徑

バス停の皆が見守るツバメの巢
寒いとだけ全身で示す子猫かな
脚元に巻きつく子猫日の永し

中村佳代子
久下 順司
山本雄二郎
樋山 隆夫

鈴つけてわが子に成りし子猫かな
子つばめの育つ軒先夕暮れる
燕飛ぶ東に西に子のために

阿曾 昌和
木村 敏博

(桃山台クラブ文芸部)

田畑美恵子
大上 昭敏

まだ暗し海苔摘み舟の灯りのみ
大寒波負けず紅梅賑々し
(下畑老人クラブ)

藤田 恵子

「元氣かい」と野菜の届く村の春
(五色山健寿会)

吉原 正子
笹浦 健一
増田 智子
蒲原 義博

二月尽急ぐ用とてなき齡
啓蟄や終末病棟西日入る
啓蟄や黒土割りて萌芽出す
春昼や鳶は大きく旋回す

吉原 正子
笹浦 健一
増田 智子
蒲原 義博

春を病み逢う事できぬ人ばかり
雲一つ二つ三つ四つ春の空
ものの芽に声かけてみて触れてみて
春めくや路傍の石も風の音も
声たてて笑うよに流る春の川

野澤 明子
山西美栄子
中村みどり
服部美智子
松岡 幸花

(塩屋柏台パール句会)

菅野 正彦
小中 命子
水島 章雄
黒森 真理
梶尾 絹代
加瀬 徳子
月山 光枝
大森 康宏
中山沙江子
島谷 祐次
瀧 千尋
瀧 小夜子
立村 霜衣

橋の影ひらひら揺れて春の川
おだやかな空の青さや種を蒔く
洗ひ菜の屑次々と春の川
蝶結びして水色の春シヨール
鱈網繕ふ夫のにぎり飯
水仙の束の香連れて友来たる
石橋を渡れば天守春の雪
横町の名主猫逝く寒の入
春江や光り集めて踊る波
幾歳の記憶の彼方田螺汁
均等に色を食べてるひなあられ
すぐそこに春が来ている窓辺にも
鴨引いて湖の漣溶けゆけり

菅野 正彦
小中 命子
水島 章雄
黒森 真理
梶尾 絹代
加瀬 徳子
月山 光枝
大森 康宏
中山沙江子
島谷 祐次
瀧 千尋
瀧 小夜子
立村 霜衣

川柳

(旭ヶ丘川柳会)

病癒え皆に会える春を待つ
スマホ鳴りランチの誘い頼緩む
お留守番おしゃべり家電に返事する

阿倉 慶子
阿部 和子
板脇 英子

(滝の茶屋クラブ)

伊藤 孝子

短歌

(西舞子女の会)

陽春や家族見守る通学路
希望あふるる輝け未来に
(桃山台クラブ文芸部)

近藤 恭正
尾崎 桂子
柴山希美子

山茶花にひよどり遊ぶ時期が好き
囲碁将棋若手の活躍底知れず
原油高寒さに少し強くなり
ポカポカの陽気物干し割烹着
満開を言葉いらぬ人といく
梅の香の余韻まといて家路着く
温暖化足るを知るのが遅すぎた
春よ来い三寒四温散歩する
点灯にはやる気持ちの長き朝
タンポポのわた毛の自在学ばねば

桂木 文子
熊谷 勝紀
小林 孝
小林 佳子
富岡 節子
前田 妙子
三木 浩
本谷丈日子
森田美佐子
和田 恭子

(多聞台ときわ会文芸部)

原田 菊枝
小高 肇

折角の顔マスクが隠す令和の世
(桃山台クラブ文芸部)

久下 順司
山本雄二郎
樋山 隆夫
木村 敏博

競い合う地震侵略死者の数
ふる里に渡るパンダや人涙
本復の友の駒音音高し
天災に人災重なり増える死者

久下 順司
山本雄二郎
樋山 隆夫
木村 敏博



「友達」

下畑老人クラブ 藤田 恵子

2月8日NHKの「朝イチ」で、友達作りの話をしました。古代ギリシャの哲学者アリストテレスが言った事。友達とは、互いに相手に良かれと願うこと「徳・快・利」そして気心の知れた人とのつきあいを大事にしたい人50代は昔の友達と、60代は近所の友達作り…等々楽しい友達作りの話をしていました。

私達の友達は91才、90才が2人、89才、87才の5人組です。もともと近所と幼なじみで、コロナウイルスの流行前は、桃山台ふれまち協議会の給食会の帰り道、一番近かった私の家に立ち寄り雑談したのが始まりで、コロナが蔓延し、給食会が中止になって淋しいので、私の家に月2回のおしゃべり会が始まりました。この年になって何でも話せる友達が出来て昔話の苦しかった事、悲しかった事が今はみんな楽しい思い出として話し合える仲間です。その内私達の楽しい集いを知った子供や孫達が、色々面白いゲームや、クイズを持って来てくれる様になり、今ではゲームでワイワイ勝負を楽しんだり、なかなか解けないクイズに頭をひねったり、午後のひと時を楽しんで居ます。楽しい友達は近くに居ます。残り少なくなって来た人生、今、生きている事を一緒に喜び合える友達に「ありがとう」。

令和5年2月8日



リスナーに励まされて

五色山健寿会 副会長 田邊 依子

日本赤十字社の奉仕団の一つに「兵庫県声の図書赤十字奉仕団」があります。視覚障害者に、単行本や新聞・雑誌、自らの旅行記等を録音してCDにしたものを貸し出しています。コロナ禍で活動を縮小している間、私は自宅録音で単行本を1冊仕上げることにしました。「175人の皆さんと藤野高明」著、「あの夏の朝から75年」です。

藤野さんは終戦から約1年後の夏の朝、小川の岸に捨てられていた不発弾を危険な物とは知らず遊んでいて暴発し、両手先と両眼の視力を失いました。

5歳の弟さんは即死でした。手の指がなければ点字も読めないという理由で不就学の期間が13年も続きました。しかし、向学心溢れる藤野さんは、唇で点字を読めるようになります。あの小さな突起を唇で読むのは想像を絶する苦勞です。しかし、不屈の精神力で困難を克服し、社会科教員の資格を取得後、母校大阪市立盲学校の教諭を定年まで30年間勤められました。84歳の今も著述や講演活動の傍ら、視覚障害者の生活と権利を守る活動を続けておられます。この本はそんな藤野さんと関わったり、影響を受けた175人の人々の思いと、藤野さん自身の著述です。読みながら、大変大きな力をもらい「そろそろボランティアを引退しよう」と思っていた気持ちが変わりました。目の不自由な方の生活の一助になればやってみよう、いつもリスナーの前向きさにこちらが勇気づけられています。

楽しい旅をお届けする・・・
名鉄観光サービス㈱へ
お気軽にお問い合わせ下さい



 **名鉄観光** サービス株式会社
神戸支店

観光庁長官登録旅行業 55号

〒650-0032 神戸市中央区伊藤町121

(神戸伊藤町ビルディング2F)

TEL 078-321-5005

垂水区担当 奥谷 昭人

旅のご相談は...
WTS ワールドツアーシステム



お気軽にご相談ください。

大阪府知事登録旅行業2-2047号
ワールドツアーシステム株式会社
神戸営業所

〒650-0015

神戸市中央区多聞通2-4-4

ブックローンビル2階

電話番号 078-382-0088

ファックス 078-382-0089

http://www.e-wts.co.jp